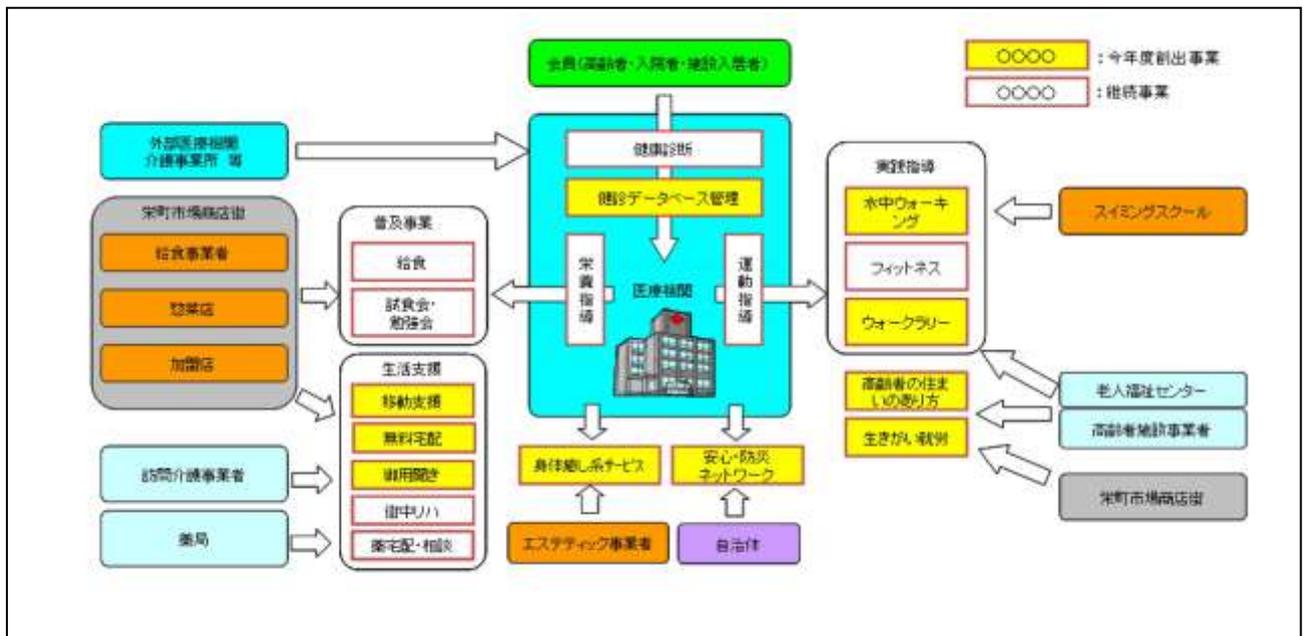


(No. 45)

事例名	医商連携・那覇栄町市場商店街
地域	沖縄県那覇市
実施主体	医療法人陽心会、 栄町市場商店街振興組合
活動要約	医療法人と地域商店街等が連携して地域の中高年の健康管理と医療・介護 周辺サービスを創出するための社会実験
主な分野	「介護・ケア」・「コミュニティビジネス」・「生活支援」・「買物支援」
主な関係者	「若返りの会」会員（陽心会の元患者）：4,000名 栄町市場商店街加盟店（90店舗）他
キーワード	買物リハ／買物支援／中高年の健康管理／地域商店街

■経済産業省「医療・介護周辺サービス創出調査事業」

平成21年度より、那覇の安里地区において、医療法人陽心会と栄町市場商店街が連携して、中高年の健康管理と安心・防災、生活支援、癒し系サービス、生きがいの就労サービスなどを総合的に展開するための制度的課題抽出を行った。



主な事業は以下の通りである。

- ① 健康管理事業（医療法人陽心会会員を対象に健康診断、買物リハ、フィットネス、食事指導）
- ② 安心・防災ネットワーク事業（緊急通報・安否確認・防災ネットワーク構築）
- ③ 生活支援サービス（商店街にアンテナショップ、買い物支援、買物カート貸出、宅配）
- ④ 身体癒し系サービス（入院患者、施設利用者等にエステサービス、スパ利用）

■地域の中高年の若返りと街の活性化プロジェクト

＜栄町市場商店街＞

- ・ 沖縄の本土復帰前から地元密着型の商店街として存続。一方、那覇国際通り等の他の商店街は観光地化し、土産物屋中心に変貌していった。
- ・ 栄町は一時、かなりさびれていたが、本土から戻ってきた備瀬氏ら数人が中心となり、5、6年前から「屋台まつり」（6月～10月の最終土曜日）をはじめたところ、かなり評判がよかった。
- ・ 沖縄とこの商店街の昔ながらの魅力（ディープなたたずまい）にひかれて、内地から来て商売を始める人も少ない。120店舗（組合加入は90店舗）
- ・ おばあラッパーズや、栄町商店街のCDなどを発表（国交省の助成金を活用）。
- ・ エリア内には、陽心会グループの医療福祉施設も点在している。
- ・ ここで1,000円以上の買物をする、自宅まで送り届けるサービスを実施している（沖縄には、戦前から、軽貨物という習慣があった）。運送業法上の制約もあり、台数制限して運用している。
- ・ 長年の商店街活性化の活動が認められて、2012年1月、共同通信・地方新聞社共催の「地域再生大賞」を受賞した。
- ・ 現在は、医療法人陽心会と連携して経済産業省のモデル事業で「地域の中高年の若返りと街の活性化プロジェクト」を展開中（3カ年プロジェクトだが、2月末で実証実験は終了）。





＜出典＞那覇 栄町市場商店街ホームページより

＜大道医療・福祉を考える会コンソーシアム＞

- ・地元の医療・福祉法人陽心会が、2000年から「大道医療・福祉を考える会コンソーシアム」を立ち上げている。
- ・社団法人「若返りの会」（陽心会グループの元患者が中心）の4,000人を対象に様々なヘルスケアサポート事業を展開している。
- ・商店街にある多目的ホールで会食&栄養指導を行ったり、ハイリスク者を対象にしたスイミングスクールを開催（普通は健常者が利用するもの）。当初は無料指導であったが、今後は一部有料化してゆく予定。
- ・「街中リハ」、「買物リハ」と称して、要支援の高齢者達を対象に、団体で買物ツアーをやってもらう。街中に出て周囲のことを考えるようになり、お店の人々とのやりとりがよい刺激になる。

■課題等

- ・経済産業省の事業が2月で終了したあとはサービス有料化を考えているが、はたして定着するかどうか。
- ・栄養管理の観点からヘルシーな食品を展示しても、客は大きな方を購入してしまうという現実がある。

連絡先	医療法人 陽心会 住所；沖縄県那覇市大道 127 番地 電話：098-886-0007
	栄町市場商店街振興組合 住所；沖縄県那覇市安里 381 電話：098-886-3979 http://www.sakaemachi-ichiba.net/about.html

(No. 46)

事例名	市民後見人の会
地域	東京都品川区
実施主体	NPO 法人 市民後見人の会
活動要約	認知症高齢者（予備軍含む）の財産管理（成年後見人）を NPO で行う
主な分野	「介護」・「ケア」
主な関係者	市民後見人の会会員（100 名）
キーワード	市民後見人／認知症高齢者

■ 活動のきっかけ・経緯

- ・ 2000 年 介護保険制度（厚労省）と成年後見人制度（法務省）がスタートしたが、介護保険制度の普及と比較して、成年後見人制度の普及はまだまだであった。成年後見が普及しない主な理由として①自分の財産管理を第三者に委ねてしまうのは不安であるという心理、②成年後見に対する報酬が低い（家庭裁判所の決定）、③成年後見人の担い手不足 の3つがあげられるが、成年後見活動普及へのチャレンジを試みた。相続問題や不動産管理等、財産管理上複雑なものは弁護士や司法書士等の専門家の手が必要であるが、そういった複雑な事務処理はごくごく僅かに発生するものであり、殆どは家計簿レベルで解決出来るので、市民活動レベルでの成年後見活動を普及出来るのではないかと考え、本活動を開始した。

■ 市民後見人の会

- ・ 2006 年 11 月 任意団体「市民後見人の会」発足。成年後見活動の普及、及び市民後見人の育成を目的とした「市民後見人養成講座」を独自にスタートさせる。2008 年、同講座は品川区との共催事業となり、2009 年には会の運営に関して品川区より助成を受ける。
- ・ 2008 年 1 月 「特定非営利法人 市民後見人の会」として東京都より認定を受ける。2011 年・2012 年、同法人の活動が品川区からの委託事業となる。
- ・ 和久井理事長の信念としているもの
 - ① 日本社会を変えたい
 - ② 高齢者問題に取り組みたい
 - ③ 孫の世代の日本を良くしたい
 - ④ 現役時代から地域社会に接すること
 - ⑤ 自治体に働きかけ、自治体を変容させること である。
- ・ 公民館等で行われるイベント等ではなく、高齢者だけのコミュニティでもなく、日常生活の中に高齢者・幼児までが触れあうことが出来るような「顔」が見える場を提供したいと考えている。
- ・ 品川区は成年後見の分野においては、恐らく全国トップレベルであり、現在では「市民後見人の会」の会員も 100 名を越えている。

■活動内容

●背景と目的

- ・認知症や知的障害等の要因で、判断能力が著しく低下した高齢者には権利や財産管理といった事項が必要であり、後見人活動を以て高齢者の生活を支援するのが目的。そして、そのことが「尊厳ある生活や暮らし」を送ることに繋がると考えている。また、これからの日本の高齢化社会を支えていくためには、市民後見のしくみを充実させる必要があると考えており、市民後見人を養成する仕組みやネットワークを拡充させ、日本に市民後見という制度を根付かせたいと考えている。
- ・従来の後見制度は「財産管理ありき」というものであったが、「生活ありき」というスタンスで、市民に「心の安心」「生活の安心」「身体の安心」に加え、「判断の安心」を提供することが目的。
- ・発足当初は日本財団からの助成金にて運営。2009年の「市民後見人養成講座」の開催に関しては、品川区の助成金を受けて開催。
- ・市民後見の活動は、基本的にボランティアで行っており、収支計算すると間違いなく赤字になる事業である。「市民後見人養成講座」や市民後見人のコーディネートに関しては、品川区の助成金、或いは委託金で運営している。

●活動概要

- ・東京家庭裁判所→品川区社会福祉協議会→市民後見人の会の順番で成人後見が開始される。主に被後見人の財産管理・身上監護を行い、その人の生活に適したお金の使い方の管理、どういった介護サービスを利用すればよいか？どういう生活がしたいのか？その為にその人の財産を使っている。「市民後見人養成講座」（受講者平均 20-40 名程度）を行うことにより、被後見人の為だけではなく、平均年齢 60 才以上である市民後見人予備軍が寄り合う「場」の提供も兼ねている。

■ポイント・工夫している点

- ・現会員である企業人や各専門家（弁護士・司法書士）のネットワークを活用し、講座運営や講師のコーディネートから、事務所の OA 機器調達に至るまで、人脈をフル活用している。

■課題と今後の展開

- ・現状の会員後見人の活動稼働率はあまり高いものではないので、社会に認知・根付かせる為にも市民後見人の人数を増やしていきたい。また同会を支える次世代リーダー的な人材を育成したいと考えている。

連絡先	NPO 法人 市民後見人の会（理事長：和久井良一） 問合せ先：公益財団法人 さわやか福祉財団 住所：東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 7F 電話番号：03-5470-7751 URL: http://www.sawayakazaian.or.jp
-----	--

(No. 47)

事例名	みたかスクールエンジェルス
地域	東京都三鷹市
実施主体	NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹
活動要約	各小学校に1名大人を配置し、校庭や校舎周りで学童見守り活動を行う
主な分野	「学校安全」「高齢者の働く場」
主な関係者	スクールエンジェルスのメンバー140人(50~70代のシニア男性中心)
キーワード	子どもの見守り/世代間交流

■活動のきっかけ・経緯

●活動の概要

スクールエンジェルス(以下SA)は市内の15の小学校に1名ずつ配置され、主として校庭や建物周りを常駐して見守る事業である。

SAの登録人数は140名で、平均年齢67歳(50代~70代)。比率では男性が多い

SAは警備員のように外部侵入者等に棒を持って立ち向かったりせず、学校の外に向かって「校内に常に大人の目がある」ことをアピールすることで外部からの侵入を思い留まらせる、いわゆる抑止力となることを目指す。

学校長や教師は必ず異動するといった条件下で、三鷹市が掲げる「協働」に対応する市民意識の強さ市民力が結集した事業で、「地域の子どもは地域で見守る」という考え方に基づく。

SA事業では各校ごとにリーダーが置かれ、そのリーダーのもとで各校ごとにSAの希望者を募り、採用が行われる。SAは複数名のグループとなり、その中で常に1名を常駐させるローテーションが組まれ業務が遂行される。



<SAと下校児童>

●発足のキッカケ

SA事業は、現三鷹市教育長の貝の瀬氏（元第四小学校長）から、「市内全小学校15校の見守り活動」という着地点と「予定される予算総額」の2点のみが示され、NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹（以下、シニアSOHO三鷹）が事業委託の相談を受けたことがキッカケであった。

三鷹市がこのような事業委託を試みた背景にはいくつかの事情があった。その一つは、当時、秋田県の小学校児童傷害事件があり、小学校の防犯促進に関係者の意識が高まっていたこと、その2は、教育長の貝の瀬氏が小学校長時代から小中学校合併によるコミュニティ・スクールに関心を寄せており、コミュニティ・スクールの核心的な組織である「学校運営協議会」（児童保護者を中心とした法定の機関）の立ち上げが課題となっていたこと、その3は、この時期、「学校運営協議会」の立ち上げのために児童保護者の連携意識を高める必要があり、小学校の防犯促進と児童保護者の連携意識の向上を同時に行うことに着目したこと、その4は、過去にシニアSOHO三鷹が、三鷹市教育委員会が推進するパソコンを活用した教育方法である「ラーニング・ツゲザー」事業の支援活動を受託し、一定の信頼が得られていたこと、などである。

●「シニアSOHO三鷹」のスタンスと受託までの経緯

シニアSOHO三鷹が過去に受託した上述の「ラーニング・ツゲザー」事業での活動内容は「教育現場でのトラブル対応」であったが、この受託事業はシニアSOHO三鷹にとっては苦い経験となっている。予め取り決められていた業務範囲が、実際の活動現場ではほとんど機能せず、どんどん仕事が増えていったのである。これは委託側である学校サイドの問題だけでなく、受託側であるシニアSOHO三鷹の側にも問題があった。

この経験から、新たに事業委託の相談を受けたSA事業に対しては、教育委員会等と、具体的にどのようにしていくかを約1年かけて、細かく条件を詰めている。

例えば、「校内を見回るのなら、学校の外回りも見回ってほしい」「学校近くの信号での見守りもできないか」といった類の更なる要望は、すべて業務外であるとして厳として譲っていない。シニアSOHO三鷹の中で警察業務の法令に詳しい会員を同行してまで、業務外の切り分けにこだわっている。

この姿勢はSA事業が始動した後にも保たれ、例えば、ある学校から「用務員の兼務」の打診があったときも当然のように断っている。

この条件交渉には、シニアSOHO三鷹代表理事の久保氏が当たっている。1年にわたって交渉を意思固く続けうる人材がいたということでもある。

従来から「シニアSOHO三鷹」は「単なる業者」とであると公言している。利益がなければ手を出さないということである。

しかし、このSA事業に関しては、交渉に当たった代表理事の久保氏は、必ずしも他の理事の賛同が得られているわけでもない中で、当初から「社会貢献」と位置づけこの事業を受注、「利益は出なくてもよいが、赤字になったら止める」「双方に事故が起きたら止める」との原則を立てて事を進めている。この「社会貢献」について久保氏は、「地域の人が力の弱い子どもを見守りながら、学校の現状に理解を示すこと」と「そこに雇用を作り出すこと」が重要点だったと話す。

他方、SAの応募者に対しては、「自分の健康管理は自分の責任で行う」ことを認めさせている。具体

的には、保険の加入はするが、病気になってもそれ以上の責任持たないということである。

このように、委託側である学校や保護者にも、受託側である自らのメンバーにも、ギリギリの選択を迫るプロデュースとなっている。

また、「シニアSOHO三鷹」自体が高齢者の居場所ではないかとの見方もあるが、単なる居場所ではなく、「自分で仕事を考える人にとっては居場所になる」が、「何か仕事をくださいという人が受け入れられる場ではない」とのことである。

■活動内容

●警備員ではなく、あくまで見守り員

SAは学校の外に向かって「校内に常に大人の目がある」ことをアピールすることで外部からの侵入を思い留まらせる、いわゆる抑止力で学校の安全に寄与する。この抑止力を出すために、通称「ボックス」と呼ばれるプレハブ小屋を門のそばに目立つように置くことと、一見して監視員の類であることが判る制服制帽の着用を必須とし、必ず事前の研修を受けることを義務づけている。

SAは警備員のように外部侵入者等に棒を持って立ち向かったりせず、異常を認めたら副校長に連絡もしくは報告をするだけである。緊急の連絡の必要に備えて、副校長とつながるトランシーバを携帯し、例えば、外部侵入者を発見したときなどは、副校長への連絡は暗号で行われ、次いで、副校長の指示で他の教職員や子どもたちが決められた対応（子どもたちを教室内に入れ、教室のカーテンを閉めるなど）をすることになっている。訓練は年1回、学校を挙げて行われる。

ただ、特に問題となったことはないがと前置きしながらも、学校としては「警備」の工夫が必要となると校長は語る。

他方、SAの側も一定の「抑止力」を担保するために、明記はしていないが、トランシーバと共に携帯しているホイッスルを走りながら吹けることや、ハイヒールの靴は履かない、80歳でリタイヤするなどのルールを設けている。

上記した「校内に常に大人の目がある」ことは、子どもたちやその保護者に安心を与えている。また、SAは各校ごとに複数人の交替制となっているため、結果的に、校内だけでなく町中にも非番ではあるがSAの目が存在することになっている。



<ボックス>

●地域によく溶けこんでいる

SA事業では各校ごとにリーダーが置かれていて、そのリーダーのもとで各校ごとにSAの希望者を募り、採用が行われる。SAは複数名のグループとなり、その中でローテーションが組まれ業務が遂行される。

新人をどう受け入れるかはリーダーにまかされている。あるリーダーの場合は、当番のSAと共に現場に入れて慣れさせ、リーダー自身も現場に入り、ひとり立ちの見極めをしている。

このように、SAの在り方にはリーダーのカラーが色濃く反映されて学校ごとに違いが出ているが、それを超えて、小学校の入学式での子どもたちへの紹介や、教職員や子どもたちとの日々の接触、保護者の抱く安心感などから、いずれも「あって当然の仕組み」になっている。今、SAを無くそうとすると、子どもたちや保護者から不満が出るだろうと校長は語る。いわば、「学校の一員に近い存在」あるいは「学校という地域の仕組みによく溶けこんだ存在」ということができる。

●仕事はハードだがほとんど辞めない

SAは複数人のグループで構成されるが、契約上現場には1人しか投入されない。勤務は1人1日4時間と決められており、上記したように、通称「ボックス」と呼ばれるプレハブ小屋が置かれているが、勤務中は原則としてボックスの中にはいけないうことになっている。夏の炎天下でも、冬の厳寒期でも校庭に立つのである。高齢者にはかなりキツイ仕事であり、加えて、収入も月平均3～4万円程度にとどまるが、発足より7年目に入る現在まで辞める人はほとんど出ていない。逆に、ある関係者は、SAを続けると高齢者はより健康になっているのではないかと語る。

もともと希望してSAになった人達で、健康にもそれなりの自信はあったものと思われるが、業務自体にも、各人に継続をさせるだけの魅力があることは疑いがない。

●久保代表からのメッセージ「地域の子どもは地域で見守る。そしてみんな幸せ。」

学校を基点とした子どもの安全対策の中のひとつの事業である「みたかスクールエンジェルス」。

この事業がスタートした2006年に入学した児童が、2012年3月小学校を卒業した。卒業生から感謝のこぼれをもらったメンバーは顔を崩して喜ぶ。「やっつけて良かった、嬉しいね」。

6年間の中で、既に中学生になっている生徒達との会話が続く。

「こんにちは、スクールエンジェルスのおじさん（おばさん）！」

「そうか～もう中学生だったね」。

小学校から中学校へ、地域の中で暖かい流れが出来始めている。

連絡先	NPOシニアSOHO普及サロン・三鷹（代表理事：久保律子） 住所：三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザ310 電話番号：0422-40-2663 URL: http://www.svsoho.gr.jp
-----	---

(No. 48)

事例名	Think AGE
地域	東京都板橋区（高島平団地）
実施主体	(株)資生堂／(株)ニチレイ／ライオン(株)／味の素(株)／ユニ・チャーム(株)
活動要約	企業コンソーシアムが「快（Enjoy）」「楽しさ」「高齢者の行動変容」をキーワードに、高齢者のQOL向上を目指し、お化粧品教室・健康セミナーを開催
主な分野	コミュニティ・ビジネス
主な関係者	・ 東京大学高齢社会総合研究機構 ジェロントロジー・ネットワーク ・ UR 都市機構 ・ 高島平団地自治会の高齢者
キーワード	高齢者のQOL／新ビジネス／お化粧品教室／口腔ケア／ウォーキング

■ 活動のきっかけ・経緯

2009年度、未来社会の創造を目指す産学連携組織として東京大学産学連携本部内に「東京大学ジェロントロジー・コンソーシアム」（45社の大手企業参画）が設置される。当該コンソーシアムの中でも「高齢者への快（Enjoy）や生きがいの提供」をテーマに、QOLの向上に根付いた高齢者コミュニティ（場）と新ビジネス（新市場）の創出を目的とした「ジェロントロジー・ネットワーク」参画企業で組成される派生活動『Think AGE』が2011年度よりスタート。高齢者への楽しさの提供は『Think AGE』参画各社、場の設定は『Think AGE』事務局（メディシンク）が担う。

『Think AGE』参画企業各社より定額活動運営費（100万円／年）、及び各種経費の各社分担負担により『Think AGE』活動の運営費を賄う。

■ 活動内容

高齢者率が高い板橋区・高島平団地に焦点をあて、「お化粧品教室」「健康セミナー」等、65歳以上の高齢者をターゲットとしたイベントを開催。

●お化粧品教室（資生堂）

手先の運動から始まり、お肌のマッサージやファンデーション、口紅、眉毛の造り方に至るまで、1時間弱の時間をかけて、プロの指導の下、お化粧の仕方をレクチャー。デモンストレーターや参加者間で楽しく時間を過ごし、高齢者の今後のQOL向上に役立てる。

●食事と健康セミナー（ニチレイフーズ）

1日の摂取食品数や栄養バランス、食品選び、カロリー計算等のセミナーを実施。ニチレイフーズ社提供のお食事を食べながら、高齢者は楽しくセミナーを受講し、尚かつ健康に役立つ知識を習得。

●お口の健康セミナー（ライオン）

前述のお食事付きセミナーの後、口腔ケアに関するセミナーを実施。唾液量や舌の運動・マッサージ、歯ブラシ選び等について、健康に役立つ内容が充実したセミナー。

●ウォーキング（味の素／ユニ・チャーム）

骨盤の健康を保つためのウォーキングを実施（高島平周辺歴史街道を歩く）

高島平 Aging Culture Program
ちゃんど びんど しやんと Think AGE

シニアのための **健康美セミナー** 申込み 先着順!

元気なカラダづくり!
第2回 **自然&歴史を感じる 赤塚ウォーキング**
3/15(木)

専門ガイドと一緒に、高島平一帯の身近な自然と歴史、文化を感じながら楽しく歩きましょう!約2時間のお手軽コースです。けやき並木から藤野神社、東京大仏、成行館などをガイドと巡ります。
集合:中央図書館前の公園 集合時間:9時45分

無料

お食事付き
第3回 **「美しく食べて健康!教室」
「お口の健康教室」**
3/18(日)

「食と健康のプロ」が、すぐに実行でき役立つ食事のコツを実践にアドバイスしてもらいながら教えます。そして「お口の健康のプロ」が、完食しそを維持するための保唾や健康を保つコツを教えます。
場所:高島平団地2丁目32-2集合所 開講10時~12時30分

400円

第4回 **「お化粧品教室」**
3/25(日)

ビューティセラピストによる
春のお出かけメイクアップ
場所:高島平団地2丁目32-2集合所 開講11時~11時

500円

会場マップ

[申込み/問合せ先] 03-6459-3960 (株)メディシンク Think AGE事務局 担当:渡辺 桃子
18:00~19:00受付 18:00以降の受付はメール/フォーム/オンライン受付です



■参加者の感想

単身者が多いこともあり、みんなで集まったのコミュニケーションが取れる場として喜んでいただけている。また、お弁当付きというサービスがありがたかった。

■ポイント・工夫している点

『Think AGE』イベントを実施するにあたり、足繁くイベント実施場所（高島平団地）に通ったことにより地元自治会や地元新聞社との関係性が向上し、イベント集客に関して協力的な態度を示してくれるようになる。当初は『Think AGE』を外部の者として地域民も警戒心を抱いていたが、徐々に地域社会にとけ込んでいる活動へと変貌しつつある。

『Think AGE』イベント集客

チラシ・地元新聞広告において「楽しさ」を演出。またイベント会場のディスプレイ演出にも「親しみやすさ」を演出し、高齢者に楽しんでもらう工夫をしている。

■課題と今後の展開

『Think AGE』参画企業が自社商品・サービスの更なる向上に参考にする為には、出来るだけ多くの高齢者にイベント参加してもらおうのが望ましいが、イベント参加者を確保するのが現在の課題となっている。高島平団地でのチラシ配布、ポスター掲示、新聞広告出稿等の策を講じている。

連絡先	Think AGE 事務局 (株)メディシンク (担当: 渡辺桃子) 住所: 港区高輪 3-23-14 4F 電話番号: 03-6459-3960 URL: http://www.medithink.co.jp
-----	--